

学校名	福井県立若狭東高等学校
-----	-------------

## 平成 28 年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

### I 委託事業の内容

#### 1. 研究開発課題名

農業を中核に商業・工業と融合した産業を創り、「地域資源を活かし売れる商品をつくるテクノアグリ」人材の育成

#### 2. 研究の目的

薬用植物の産地化、植物工場など高度な施設園芸、経営やマーケティング、技術開発など「生産、調理・加工、販売」に総合的に取り組める力を身につける「テクノアグリプログラム」を研究開発し、地方を創生する産業づくりに貢献できる人材育成を目指す。

#### 3. 実施期間

契約日から平成 29 年 3 月 15 日まで

※ 最長で当該年度の 3 月 15 日（3 月 15 日が行政機関の休日に当たる場合は直前の開庁日）まで

#### 4. 当該年度における実施計画

福井県では「いきいき里山特産品育成事業」で薬用植物の産地育成や「企業的園芸支援事業」で植物工場の誘致・整備を行っており、福井県での農業は変化しつつある。そこで、農業を中核にすえ、生産、調理・加工、販売を総合的に起業する「テクノアグリプログラム」により、薬用植物の産地化、植物工場など高度な施設園芸、経営やマーケティング、技術開発に対応できる人材を育成することを最終目標とし、新しい農業経営モデルを構築することで地方を創生する新産業づくりを目指していく。研究開発課題名にあるテクノアグリとは、「商業や工業の知識や技術が必要とされる農業」のことを示し、本事業で育成を目指している「テクノアグリ人材」とは、「コスト管理やマーケティング、生産効率を向上させる技術開発などの知識や技術を習得した農業人」と定義し、薬用植物の栽培技術の整備や商品開発、植物工場の施設・設備と栽培技術の習得を通して人材育成を行う。

薬用植物や植物工場はこれまでの教育課程であまり取り扱われてこなかったことから、平成 27 年度（1 年目）の取り組みでは、薬用植物や植物工場に対する生徒の興味・関心を高めること、研究で使用する植物種を選定し商品開発を進めること、基本的な成分分析手法を習得することなどを実施した。さらに、教員の指導力向上を目的に先進地見学なども行った。

2 年目となる今年度では、薬用植物の取り組みとして平成 27 年度に選定した種類を中心に栽培可能な種類を増やすとともに商品開発や薬膳のメニューの充実を図る。植物工場の取り組みとして栽培実験を本格的に開始するとともに園芸生産施設の試作に取り組む。今年度は 1 年目

に協力していただいた外部機関を中心に講演会などのように一時的なものだけでなく、継続的な技術指導の場面を設ける。「課題研究」や学校設定科目「農業ビジネス」などの科目において、生徒の課題解決能力を高めるために、探求的な学習活動（グループワーク、アクティブラーニング等）による授業を展開していく。これらの活動を通して、生徒の薬用植物や植物工場に関する知識と技術の習得を図りつつ、3年目の最終目標に向けて栽培や商品開発など得られた成果を地域にどのように広めて行くか検討する。評価にあたっては、農業科の生徒だけでなく工業科や商業科の生徒にも、どのような意識の変化があったか追跡できるようにするとともに、3年間の実施計画において目標として掲げた生徒に身に付けさせたい知識や技術（例として植物工場に関わる分析機器の使い方、栽培装置の仕組みなど）を明記して実施し、生徒が身に付けたスキルを具体的に捉えることができるようにする。また、農林水産部と高校教育課の協力を得て、福井県が推進している薬用植物栽培やスマート園芸に関する実習の受け入れ調整や進路情報の提供など事業推進にあたって助力をいただく。

#### （1）薬用植物や地域の有用植物などの栽培と製品化（地域創造科、生活創造科）

薬用植物の栽培・加工・調理に関する基礎的な知識と技術を有する生徒を育成するために、平成27年度に選定した薬用植物を中心とした栽培試験に取り組むとともに、生産した薬用植物の出荷先の確保のためにも薬用植物を使用した商品や薬膳のメニューの充実を図る。

##### ①薬用植物の栽培実験と商品開発（地域創造科食農創造コース）

- ・1年生 「農業と環境」 「総合実習」
- 2年生 「農業ビジネス」（学校設定科目） 「草花」 「総合実習」
- 3年生 「課題研究」 「総合実習」

薬用植物の種類や特性、栽培に関する専門的な知識や技術の習得するために、先行して栽培や商品開発を行っているコウギクに加えて、平成27年度に導入・選定したハトムギ、ステビア、ツリガネニンジン、レモングラス、イブキジャコウソウの栽培実験を開始する。栽培実験では圃場での栽培だけでなく、人工光育苗装置を使用した効率的な育苗方法についても実験を行う。

商品開発に関する手法を習得するために、ハトムギやステビアなど今年度に収穫可能となる栽培品目については、商品開発に向けての試作を商業科と協力して進める。薬用植物の栽培に関しては、薬用植物に対する有識者、商品開発に関しては、地域の食品製造者と連携して実施する。栽培実験や商品開発では、コスト管理や広報など経営的な視点を取り入れる。農業科で開発した商品（例えば、「解体新茶」など）を売るための販売手法について商業科と協力して実施する。

薬用植物について初めて学習することとなる1年生では、平成27年度と同様に薬用植物に対する興味や関心を高めることを主な目的として実施する。

##### ②地域資源を活かした里山の保全（地域創造科地域開発コース）

- ・2年生 「総合実習」
- ・3年生 「総合実習」 「課題研究」

林産物の利用・生産・加工方法を習得するために、地域にある薬木としても利用できる樹木やこれまでも研究に取り組んできたアブラギリについて調査し、樹木に関する知識や里山の環境問題について理解を深める。地域の関連団体と協力して実施し、林産物の活用方法を

広めていく。

### ③薬膳などのメニューの開発（生活創造科）

- ・ 3年生「課題研究」 「フードデザイン」

平成27年度に学習した薬膳の特性や考え方、薬膳に使用する食材に関する知識を活用して、旬の食材や地域の伝承料理を取り入れて薬膳メニューの充実を図るとともに、栄養価の計算など調理に関する知識と技術を習得する。1日レストランなどでメニューを提供する際、商業科の協力を得て若狭塗箸や若狭和紙など地域の工芸品の食器を用いて、若狭をアピールする。薬膳に関する有識者や薬膳を提供している飲食店と連携して実施する。

薬用植物であり地域の特産物であるクズとコンニャクを使った商品開発や広報について、関連機関と共同して行い、クズやコンニャクの振興を図る。

## （2）閉鎖型植物工場など人工光による植物栽培（地域創造科）

植物工場などでの栽培と施設の両面に関する知識と技術を習得するために、栽培に必要な栽培技術や培養液の分析方法など、実践的な学習を行う。植物工場関係の大学や企業と連携して実施する。

### ①栽培条件と成分の関係など栽培実験、生産技術習得

- ・ 1年生「農業と環境」 「総合実習」
- 2年生「野菜」 「総合実習」
- 3年生「課題研究」 「野菜」 「総合実習」

高付加価値な野菜の生産技術の知識や技術を習得するために、太陽光人工光併用型植物工場を用いて、光や培養液の条件を変えて栽培実験を行い、植物体の成分の変化を調査する。

福井県は、太陽光・人工光併用型植物工場を活用したスマート園芸を推進しており、高度な園芸技術を有している人材の確保や育成が求められている。このため、同様の装置でミディトマトやパプリカの栽培研究を行っている県園芸研究センターでの実習・技術指導を受けながら人材育成を行う。

また、栽培に関する比較研究だけでなく、植物工場での栽培を実践的に学習することで、植物工場での野菜の栽培法についての知識や技術を習得する。

植物工場について初めて学習することとなる1年生では、平成27年度と同様に植物工場に対する興味や関心を高めることを主な目的として実施する。

## （3）実用的園芸生産施設の製作

植物工場などの高度な施設園芸で必要となる工学的な知識や技術を習得するために、栽培装置の仕組みを理解できるように小型栽培装置の試作を行う。

### ①工業科との共同で行うLED光源や栽培装置の試作（地域創造科）

- ・ 3年生「課題研究」 「野菜」 「総合実習」

植物工場などの栽培装置に関する知識や技術を習得することを目標として、工業科でLED光源を製作する際のLEDの波長（赤・青）の比率や水耕装置の仕組みについて農業科がアドバイスしながら共同して小型の栽培装置の試作を行い、農業科での栽培実験を通して装置の評価を行う。

(4) 経営やマーケティング、技術開発ができる人材の育成（学校設定科目）

- ①平成28年度から2年地域創造科食農創造コースでは農業の6次産業化や薬用植物の栽培など、商品開発や販路拡大を実現するための知識や技術を習得するために学校設定科目「農業ビジネス」を開設する。平成27年度に作成した年間指導計画に沿って授業を進め、課題や成果を見つけ出していくことで指導内容の充実を図る。なお、加工や販売の学習では、必ずしも年度内に最終製品の完成を目指すのではなく、加工技術や商品開発・販売手法の習得について取り扱う。
- ②植物工場についての知識や技術の習得を目標とする「生産工学」の教育内容や農業科・工業科・商業科が協力して実施できる科目の検討を行う。

(5) (1)～(4)の取り組みを通して、薬用植物栽培や植物工場の運営において、収益性の上がる栽培技術の確立や収穫物を利用した商品化を行い、地域活性化の可能性を引き出すとともに、福井県における農業の変化に対応した新しい農業経営モデルを構築し、地域の農業従事者を育成する。

平成27年度の生徒のアンケート調査では、「課題に対して解決方法を自分で考え、行動する力」が低かった。そのため、探求的な学習活動を取り入れるだけでなく、外部講師の招聘は、講演会よりも生徒に身に付けてほしい知識や技術習得を目的とした講習を実施し、その中で生徒が課題を発見し解決する能力の育成を目指す。薬用植物栽培指導（渡辺氏）では、本校で栽培している薬用植物（コウギク、ステビア、ムラサキなど）の栽培技術の習得を目的として指導を受ける。薬膳講習会では、薬膳独特の考え方や調理技術の習得を目的として指導を受けるとともに、小浜市にある薬膳を取り扱っている飲食店と連携することで経営的な視点も踏まえたメニュー作りをできる力の育成を目指す。商品開発では小浜市や若狭町の食品製造業の方と連携することで、加工技術や販売手法の習得を目的とするとともに、地元で生産した薬用植物を出荷できる場を作り出す。植物の機能性成分に関する知識や技術の習得を目的として東京農業大学と連携して講習を行う。植物工場の光環境を中心とした施設については京都大学、栽培については神戸大学や福井県園芸研究センター、成分分析については京都府立大学と連携して知識や技術の習得を目指す。

「課題研究」および平成28年度から開設する学校設定科目「農業ビジネス」では、作成した指導と評価の年間計画に沿って実施し、商品開発や販路拡大を実現するための方法を生徒が考える過程に重きを置き、各単元で目標とした知識や技術などを習得できたか、生徒にどのような力を育成することができたか評価しながら進めていく。

(6) 目標、その他

① 定性目標

研究内容		評価目標	測定方法
薬用植物	栽培実験 平成27年度に選定した薬用植物の栽培の実施	○薬用植物に対する興味・関心の向上 ○栽培を地域に広めるための栽培暦などの作成 ○専門的な知識や技術の習得	●作品法（成果物、実習記録、プリント） ●自己・相互評価 ●観察法（行動、発言、発表、実技）

				●アンケート調査
	栽培講習会・先進地見学	本校での栽培講習会や薬用植物に関する見学研修の実施	○薬用植物に対する興味・関心の向上 ○専門的な知識や技術の習得	●作品法（プリント） ●自己評価 ●観察法（行動、発言） ●アンケート調査
	商品開発	食品製造事業者と連携した商品開発講習会の実施	○商品開発の手法の習得 ○専門的な知識や技術の習得	●作品法（成果物、実習記録、プリント） ●自己・相互評価 ●観察法（行動、発言、発表、実技） ●アンケート調査
		平成27年度に開発した商品の販売促進	○商品販売の手法の習得 ○専門的な知識や技術の習得	
	地域資源と里山	地域にある薬木としても利用できる樹木調査の実施	○地域資源の発掘 ○専門的な知識や技術の習得	
	薬膳	薬膳、クズ・コンニャク商品開発講習会の実施	○専門的な知識や技術の習得	●作品法（成果物、プリント） ●自己評価 ●観察法（行動、発言） ●アンケート調査
		1日高校生レストランの実施	○経営的な視点を取り入れたメニュー開発 ○専門的な知識や技術の習得	●作品法（成果物、実習記録、プリント） ●自己・相互評価
植物工場	栽培の基礎	植物工場での栽培技術の基礎に関する授業の実施	○植物工場に対する興味・関心の向上 ○専門的な知識や技術の習得	●観察法（行動、発言、発表、実技） ●アンケート調査
		太陽光型植物工場でのインターンシップの実施	○地域の農業に対する興味・関心の向上 ○勤労観・職業観の育成 ○専門的な知識や技術の習得	●作品法（実習記録、プリント） ●自己評価 ●受入先評価 ●観察法（行動、発言、実技） ●アンケート調査
		福井県園芸研究センターでの技術指導の実施	○地域の農業に対する興味・関心の向上 ○専門的な知識や技術の習得	●作品法（実習記録、プリント） ●自己評価 ●観察法（行動、発言、実技） ●アンケート調査
	高付加価値化	植物の機能性に関する講習会の実施	○専門的な知識や技術の習得	
		栽培環境と野菜の成分に関する栽培実験の実施	○専門的な知識や技術の習得	●作品法（成果物、実習記録、プリント） ●自己・相互評価 ●観察法（行動、発言、発表、実技）

				●アンケート調査
		研究機関・先進地見学 研修の実施	○植物工場に対する興味・関 心の向上 ○植物工場の運営に対する理 解の向上 ○専門的な知識や技術の習得	●作品法(実習記録、プリント) ●自己評価 ●観察法(行動、発言、実技) ●アンケート調査
	LED	光環境と植物の生育 に関する講習会の実 施	○植物工場に対する興味・関 心の向上 ○専門的な知識や技術の習得	●作品法(実習記録、プリント) ●自己評価 ●観察法(行動、発言、実技) ●アンケート調査
		小型栽培装置の製作 と栽培実験の実施	○専門的な知識や技術の習得	●作品法(成果物、実習記録、 プリント)
経営・ 技術開 発	学校設 定科目 「農業 ビジネ ス」	学校設定科目「農業ビ ジネス」の実施	○地域農業に対する興味・関 心の向上 ○薬用植物に対する興味・関 心の向上 ○ビジネスの視点を取り入れ た農業に対する興味・関心の 向上 ○専門的な知識や技術の習得	●自己・相互評価 ●観察法(行動、発言、発表、 実技) ●アンケート調査
	科目 「農業 経営」 など	全国商業高等学校長 協会簿記実務検定3 級の受検	○専門的な知識や技術の習得	●自己評価 ●アンケート調査
		模擬的な取引の発生 から決算書類の作成 までを通したレポー トの作成	○農業経営に対する興味・関 心の向上 ○専門的な知識や技術の習得	●作品法(成果物) ●自己評価 ●観察法(行動、発言) ●アンケート調査
	学校設 定科目 「生産 工学」	学校設定科目「生産工 学」の開設のための教 育内容、教材、実施体 制の検討	○教育内容、教材、実施体制 の検討	●作品法(成果物)

## ②定量目標

研究内容		評価目標	測定方法
薬用 植物	栽培実 験	平成27年度に選定 した薬用植物の栽培 の実施 ○薬用植物に対する興味・関 心の向上：80%以上 ○専門的な知識や技術の習得 に対する関心・意欲の向上：	●実施状況(回数、日数など) ●参加者数 ●協力団体数 ●ペーパーテスト(定期考査、

			80%以上 ○意欲的な実習への取り組み : 80%以上	小テスト) ●各種大会への参加状況、大会結果 ●成果物の状況(ワークシート、指導計画、評価用アンケートなど)
栽培講習会・先進地見学	本校での栽培講習会や薬用植物に関する見学研修の実施	○薬用植物に対する興味・関心の向上: 80%以上 ○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上: 80%以上		
商品開発	食品製造事業者と連携した商品開発講習会の実施	○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上: 80%以上 ○意欲的な実習への取り組み: 80%以上		
	平成27年度に開発した商品の販売促進	○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上: 80%以上		
地域資源と里山	地域にある薬木としても利用できる樹木調査の実施	○発掘した地域資源の数 ○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上: 80%以上 ○意欲的な実習への取り組み: 80%以上		
薬膳	薬膳、クズ・コンニャク商品開発講習会の実施	○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上: 80%以上 ○意欲的な実習への取り組み: 80%以上		
	1日高校生レストランの実施	○共同開発したメニューの数 ○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上: 80%以上 ○意欲的な実習への取り組み: 80%以上		

植物工場	栽培の基礎	植物工場での栽培技術の基礎に関する授業の実施	○植物工場に対する興味・関心の向上：80%以上 ○専門的な知識や技術の習得：80%以上 ○意欲的な実習への取り組み：80%以上	●実施状況（回数、日数など） ●参加者数 ●協力団体数 ●ペーパーテスト（定期考査、小テスト） ●成果物の状況（ワークシート、指導計画、評価用アンケートなど）
		太陽光型植物工場でのインターンシップの実施	○地域の農業に対する興味・関心の向上：80%以上 ○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上 ○勤労に対する意欲の向上：80%以上 ○意欲的な実習への取り組み：80%以上	
		福井県園芸研究センターでの技術指導の実施	○地域の農業に対する興味・関心の向上：80%以上 ○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上 ○意欲的な実習への取り組み：80%以上	
	高付加価値化	植物の機能性に関する講習会の実施	○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上 ○意欲的な実習への取り組み：80%以上	
		栽培環境と野菜の成分に関する栽培実験の実施	○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上 ○意欲的な実習への取り組み：80%以上	
		研究機関・先進地見学研修の実施	○植物工場に対する興味・関心の向上：80%以上 ○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上	

	LED	光環境と植物の生育に関する講習会の実施	○植物工場に対する興味・関心の向上：80%以上 ○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上	
		小型栽培装置の製作と栽培実験の実施	○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上 ○意欲的な実習への取り組み：80%以上	
経営・技術開発	学校設定科目「農業ビジネス」	学校設定科目「農業ビジネス」の実施	○地域農業に対する興味・関心の向上：80%以上 ○薬用植物に対する興味・関心の向上：80%以上 ○ビジネスの視点を取り入れた農業に対する興味・関心の向上：80%以上 ○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上 ○意欲的な実習への取り組み：80%以上	●実施状況（回数、日数など） ●参加者数 ●ペーパーテスト（定期考査、小テスト） ●資格取得状況 ●成果物の状況（ワークシート、指導計画、評価用アンケートなど）
	科目「農業経営」など	全国商業高等学校長協会簿記実務検定3級の受検	○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上 ○全国商業高等学校長協会簿記実務検定3級合格率：70%（H27の合格率は33%）	
		模擬的な取引の発生から決算書類の作成までを通したレポートの作成	○農業経営に対する興味・関心の向上：80%以上 ○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上	
学校設定科目「生産工学」	学校設定科目「生産工学」の開設のための教育内容、教材、実施体制の検討	○教育内容、教材、実施体制の検討		

※アンケート調査は、参加生徒、受入機関（協力者）、教職員などを対象として実施する。

- ③ 研究の進捗状況や講演会の様子などを学校向けにはS P H通信の発行（印刷物とホームページに掲載）、地域や全国に向けてはホームページなどインターネットを通して発信する。地域のイベントにも積極的に出展し、研究成果の広報に努める。
- ④ 全国高校生食育王選手権やみんなDE笑顔プロジェクトなどの大会に参加するとともに、年度末には成果を発表する機会を設ける。
- ⑤ 薬用植物や植物工場に関する教員の指導力向上を目的として、現地見学や研修会などを前年度に引き続き開催する。

## 5. 実施体制

運営指導委員会、研究担当者会議、研究推進委員会は学期に1回程度を目安に開催し、研究の進捗状況の報告や指導助言などを得る。なお、運営指導委員会には平成27年度に引き続いて薬用植物や植物工場、食品製造やマーケティングに関する有識者、行政、教育関係、民間など8名に依頼する予定である。運営指導委員会の会議の場だけでなく、運営指導委員の方々から薬用植物栽培、薬用植物の特徴を活かした商品開発、植物工場の現状や今後のあるべき姿に関する講習など事業の推進にも御協力いただく。

### (1) 運営指導委員会

氏名	職名	役割分担・担当教科
小西 淳二	京都大学名誉教授・公立小浜病院名誉院長	薬用植物栽培の助言と指導
渡辺 斉	日本植物園協会名誉会員	薬用植物栽培の助言と指導
清水 浩	京都大学大学院農学研究科教授	植物工場の助言と指導
松宮 伝	小浜海産物(株)専務取締役本部統括	マーケティングに関する助言と指導
岡本 武士	岡本善七製菓店主	商品開発の助言と指導
高橋 陽子	(株)ヴァロール社員	植物工場施設の助言と指導
八原 政和	福井県農林水産部地域農業課農業人材支援室長	農林水産行政からの助言と指導
佐々木栄秀	福井県教育庁高校教育課長	高校教育からの助言と指導

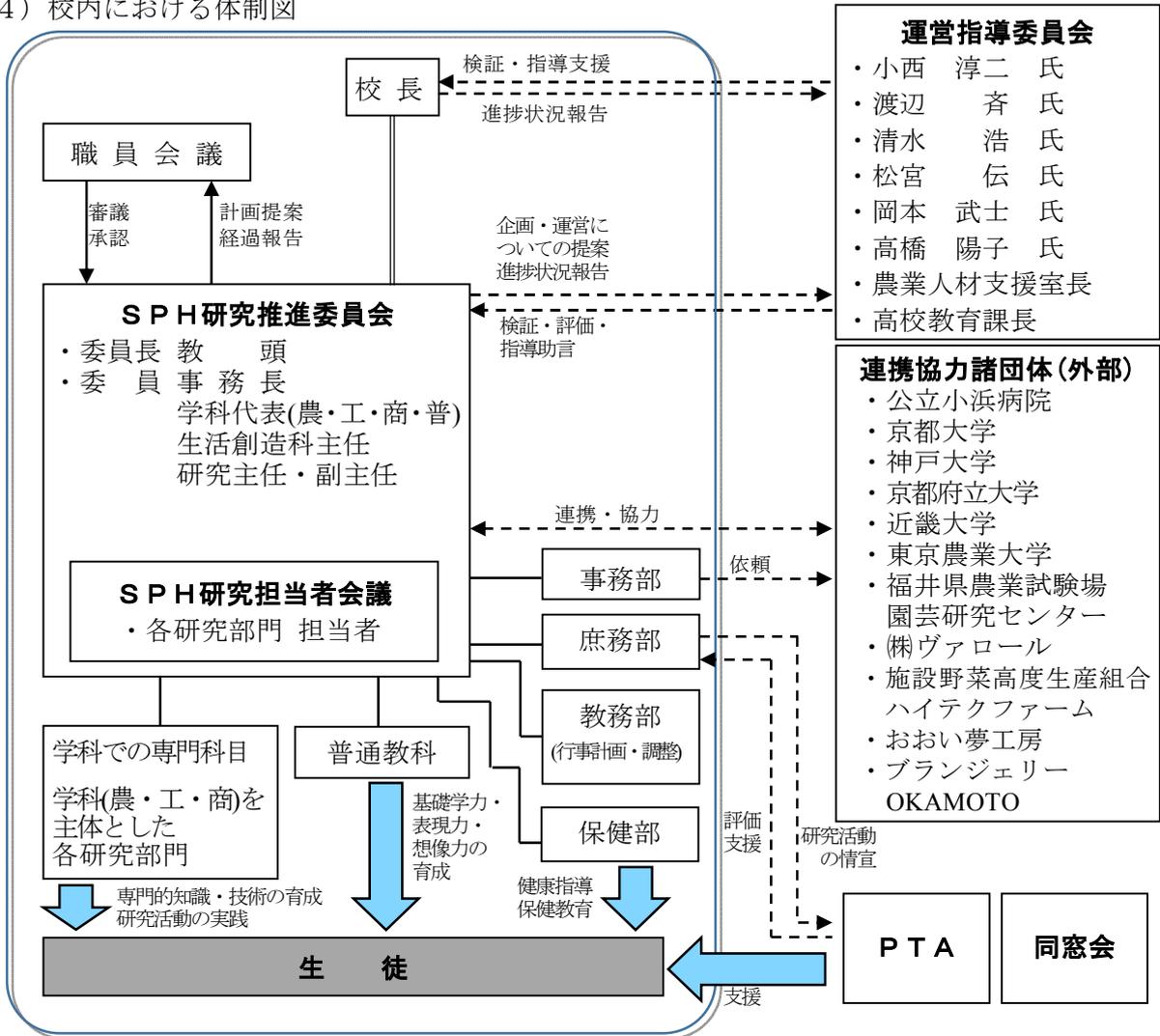
### (2) 研究担当者

氏名	職名	役割分担・担当教科
岡本 登	教諭	研究主任・全体・植物工場・農業科
水島 智史	教諭	研究副主任・薬用植物栽培・農業科
清水 浩美	教諭	広報・農業科
渡辺 可苗	教諭	薬膳・農業科
井上 ちあき	教諭	商品開発・農業科
橋本 竜	教諭	水耕栽培装置開発助言・工業科
荒木 文宣	教諭	商品販売及び市場調査助言・商業科
見越 秀和	実習教諭	薬用植物栽培及び商品開発・農業科
相蘇 龍一	実習助手	商品開発・農業科
中島 勝之	実習教諭	水耕栽培装置開発助言・工業科

(3) 研究推進委員会

氏名	所属・職名	役割・専門分野等
小野 浩亨	校長	全体統括
松宮 武彦	教頭	委員長
寺井 靖夫	事務長	会計責任者
岡本 登	教諭	研究主任
水島 智史	教諭	研究副主任
清水 浩美	教諭	農業科代表
芝田 景介	教諭	工業科代表
荒木 文宣	教諭	商業科代表
渡辺 可苗	教諭	生活創造科代表
吉村 知也	教諭	普通教科代表

(4) 校内における体制図



6. 研究内容別実施時期

※ 4. に記載した内容別に実施時期を記載

研究内容		対象 学年	実施時期												
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
(1) 薬用植物	①興味・関心の向上	1年生	野外調査・講習会												
	①栽培実験・商品開発	2年生	コウギク、ハトムギ、ムラサキなどの栽培実験・商品開発・講習会・評価												
		3年生	コウギク、ステビア、レモングラスなどの栽培実験・商品開発・講習会・評価									発表会			
	②地域資源と里山	2・3年生	地域にある薬木としても利用できる樹木やアブラギリの調査・利用方法の検討												
	③薬膳など	3年生	薬膳、クズ、コンニャクに関する講習会・試作・試作品提供・評価									発表会			
(2) 植物工場	①興味・関心の向上	1年生										講習会		講習会	
	①栽培の基礎	2年生	講習会・栽培技術・成分分析手法習得												
	①高付加価値化	3年生	講習会・栽培試験・現地見学									発表会			
(3) LED	①栽培実験	3年生	栽培装置試作・栽培実験・評価												

(4) 経営・技術開発	①学校 設定科目	2年生	学校設定科目「農業ビジネス」の年間指導計画に沿った授業の実施・課題や成果の洗い出し
	②学校 設定科目		教育内容・教材検討・開設に伴う教育委員会申請
(5) 人材育成			(1)～(3)の研究を踏まえた「テクノアグリプログラム」による人材育成を実施
	①広報		研究の進捗状況にあわせてSPH通信の発行やホームページなどの更新と3学期に成果発表会の実施
(6) その他	②教員 研修		外部連携団体や外部講師による講演・講習および先進施設・設備の見学

※ 実施時期は、事業計画書提出時のものであり、実際の事業着手は契約締結後とする。

#### 7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目

#### 8. 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

- ( ) 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。  
 (○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

#### 9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有 (無)

※有の場合、別紙3に詳細を記載のこと。

#### II 委託事業経費

別紙1に記載

#### III 事業連絡窓口等

別紙2に記載